

1 主題名 よく考えて行動する【節度・節制】 A 主として自分自身に関すること

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 「ぼく」行動についての考えることを通して、自分自身で考えて、節度ある行動をしようとする態度を養う。
 (2) 教材名 「いっしょになって、わらっちゃだめだ」(東京書籍「新しい道徳4」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

「節度・節制」の項目に関して中学年は、「よく考えて行動し、節度ある生活をしようとする。」としている。節度ある生活をするためには、自分の置かれた状況についてよく考え、自分にできることを実践することが重要である。また、4年生は友達関係を重視する発達の段階にあるため、周りの友達に流されて行動してしまうことがある。そこで、他の人から言われるのではなく、自分自身で考えて、度を越すことなく、節度のある生活のよさについて気付かせたいと考え本主題を設定した。

(2) 児童の実態と教師の願い

実態調査(第4学年1組児14名) 令和4年6月8日調査

質問項目	○あなたは、道徳の学習が好きですか。
回答	・好き9人 ・どちらかという好き3人 ・どちらかという好きではない2人 ・好きではない0人 ・無回答0人
質問項目	○あなたは、どんな道徳の学習が好きですか。
回答	・1人でじっくり考える1人 ・友達の考えを聞く4人 ・役になりきる8人 ・その他1人 ・無回答0人
質問項目	○道徳の学習は、生活に役立っていると思いますか。
回答	・思う5人 ・どちらかという思う8人 ・どちらかというと思わない1人 ・思わない0人 ・無回答0人
質問項目	○あなたは、周りの人の考えや行動に流されてしまったことはありますか。
回答	・はい8人 ・いいえ6人 ・無回答0人
質問項目	○そのときのことをくわしく教えてください。
回答	・いけない行動をしている友達に注意できなかった。 ・友達に言われた通りに行動する。

アンケート調査の結果から、多くの児童が道徳の学習について、「好き」または、「どちらかという好き」と答えている人がほとんどであることが分かった。また、「道徳の学習は、生活に役立っていると思いますか。」という質問に対しても、13名が「思う」「どちらかという思う」と回答しており、道徳の学習に対して、児童が意欲的であることが分かった。一方、「あなたは、どんな道徳の学習が好きですか。」という質問に対しては、8人が「役になりきる」と回答した。また、4人が、「友達の考えを聞く」と回答した。このことから、役割演技や友達の考えを聞きながら考えることは好きだということが分かった。普段の授業では、主体的に発表する児童は限られている。しかし、こちらから指名をすれば自分の考えを発表することができる児童が多数いる。これらのことから、自分の考えを友達に伝えることのよさを感じ取ることができていないと考えた。本時の学習の主題になっている、「よく考えて行動すること」に関する質問では、8人が周りの人の考えや行動に流されてしまったことがあると答えた。学級生活の中においても、間違えたことなどをしている人に対してははっきりと注意できる児童と人間関係を崩さないように指摘し合わないようにする児童がいる。注意する場合であっても口調が強くなったり、相手へ思いやりが感じられなかったりする場面も見られる。正しいと判断したことに自信をもって行動することのできる児童は多くはない実態である。そこで、本時の学習では、周りの考えや行動に流されず、自分自身でよく考え、自分も他の人も気持ちのよい生活をおくれることの大切さについて考えを深め、節度ある行動をしようとする態度を育成したい。また、意図的な指名をすることで多様な考えに触れることの大切さにも気付かせていきたい。

(3) 教材について

本教材は、「ゆうじ」をからかっていることをいじめではないかと父に指摘された「ぼく」が、自分のいじめに気付く、自分なりの行動に移すという内容である。「みのる」が、「ゆうじ」を「モンキー。」と呼んでいたとき、周りにいた子たちが一斉に「ぼく」の方を向いた中、「ぼく」が黙って教室を出ていったのはどうしてかを話し合い、よく考えて自分にできることを実践することの大切さを捉えることを通して、ねらいに迫るようにしたい。

4 学習指導過程

	学習活動・発問 ○基本発問 ●中心発問	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◎評価
気付く	1 アンケート調査の結果をもとに話し合う。 ○なぜ、周りの人の考えや行動に流されてしまうのでしょうか。 「よく考えて行動すること」について考えよう。	・自分の意見に自信がないから。 ・人の意見を聞くと「そうかな」と思ってしまうから。	○アンケート調査の内容について話し合うことで、ねらいとする道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る。 ○ねらいとする道徳的価値を示し、児童に考えさせたいことを明確にする。
見つめる・深める	2 教材を読んで話し合う。 ○「ゆうじ」に対して、「サル」「サル。」という声が続いているときの「ぼく」は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ○あなたが「ぼく」の立場だったら、どうしますか？ ① 自分の考えをもつ。 ・言う ・迷う ・言わない ② 全体で議論する 3 後半を読んで考える。 ●「ぼく」が教室を出ていったのは、どんなことを考えていたからでしょう。 ○「ゆうじ」を「サル。」とよぶ声が聞かれなくなって、「ぼく」はどんなことを考えているのでしょうか。	・かわいそう ・誰かとめてくれないかな ・困ったな 【言う】 ・誰かがとめないといけない。 【迷う】 ・言ったほうがいいと思うが、言ったら、みんなにどう思われるか心配。 【言わない】 ・言ったら嫌われてしまう。 ・勇気がない。 ・一緒になってからかうのは嫌だ。 ・本当は注意したかった。 ・自分にできることをしようと考えたから。 ・助けたい。 ・みんなと同じ行動をとらなくてよかった。	○教師が分かりやすく範読する。 ○場面絵を活用し、「ぼく」の気持ちを十分に考えられるようにする。 ○スカイメニューのポジショニング機能を活用し、考えを対比させて自分と同じ考えや、異なる考えがあることに気付くことができるようにする。 ○全体で議論をした後、考えが変わった児童に対して、ポジショニングを動かす時間を設けるようにする。 ○教師が分かりやすく範読する。 ○児童の考えを把握しながら、個別に言葉をかけ、考えを深めることができるように、意図的な指名へつながらるようにする。 ○よく考えて行動することのよさについて考えられるようにする。
広げる	3 これからの自分について考える ○あなたは、「みんなが楽しくても、誰かが嫌な気持ちになっていないか。」を、よく考えて行動していますか。	・周りに流されてしまったことがある。 ・よくないと思ったけれど、勇気がなくて言えなかった。	◎周りの人の考えや行動に流されず、よく考えて行動し、節度ある生活をしようとしているか。 【タブレット・発言】 ○机間指導をしながら、あいまいな表現をしている児童に対して問い返しをし、具体的な考えを書くことができるようにしていく。 ○これからどうしたいかを考えられるようにする。
高める	4 教師の説話を聞く		○話を聞いて、実践意欲につなげるようにする。